

事業所における自己評価結果（公表）

公表：令和 6年 4月 22日

事業所名 アットスクール大倉山

	チェック項目	評価			工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
		はい	どちらとも いえない	いいえ		
環境・ 体制整備	① 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である		66%	33%		・機能訓練室を使い分けができるようにしていきたい。
	② 職員の配置数は適切である		66%	33%	・スタッフの人数が多い時は、上長に相談をしている。 ・教室に人が多く集まらない様に仕事を割り振り、密にならにようにしている。	・回し方の見直しや応援応援人数や仕事内容を適切にしていきたい。
	③ 事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	33%	66%			・敷地内はバリアフリー化されているが、事業所内は小さな段差等がある為、工夫をしていく。
業務改善	④ 業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している	33%	66%			・スタッフが揃い、引継ぎが上手く出来たら全体で参画していきたい。
	⑤ 保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	66%	33%			・保護者の意向等を把握しているが、全てを改善に繋げて入れる訳ではない為、今後は今まで以上に業務改善が出来るよう努めていく。
	⑥ この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	66%		33%		・HPIには公表しているが、会報の方にも載せている事が全体周知されていない為、今後していく。
	⑦ 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		66%	33%		外部評価の報告については、今後行っていか社内にて検討していく
	⑧ 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	100%				
適切な 支援の 提供	⑨ アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	100%				
	⑩ 子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	100%				
	⑪ 活動プログラムの立案をチームで行っている	33%	66%			・チームでは行えていないので、今後チームとして複数で意見を出しあえる様にしていきたい。
	⑫ 活動プログラムが固定化しないよう工夫している	100%				
	⑬ 平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している		66%	33%		・設定は行っているが、人員や環境によって左右されてしまう事がある為、スケジュールの見直しをしていきたい。
	⑭ 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	66%	33%			・人員の入れ替えが多い為、計画していた通りに実行するのは難しい時がある。 人員の定着を図り、活動に質を上げていきたい。
	⑮ 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の内容や役割分担について確認している	100%				
⑯ 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	33%	66%			当日ではなく、翌日に必ず振り返りを行っている。 特記事項のみ当日に振り返り、引き続き振り返りの時間は大切にしていきたい。	
関係 機関 や 保護 者と	⑰ 日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	100%				
	⑱ 定期的モニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	100%				
	⑲ ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ支援を行っている	66%	33%			スタッフでガイドラインの総則の基本活動を確認していきたい。
	⑳ 障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	66%	33%			サービス担当者会議に参加する際は事前に準備をしてから参加していきたいと思う。 (あまり会議がない)
	㉑ 学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っている	100%				
	㉒ 医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	33%	66%			主治医との直接的に連携を取っている訳では無い為、担当者会議等で機会を設けていけるといいと思う。(必要な場合のみ)
㉓ 就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	33%	33%	33%		・新1年生の受け入れを今年度は行ってない為、その際は、情報共有を行っていく。	

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
の 連 携 関 係 機 関 や 保 護 者 と の 連 携	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	33%	33%	33%		・卒業生がいない為、今年は提供がしていない。例年は情報提供を行っている
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている		33%	66%		専門機関との連携は十分に取れていない事とそれに見合った研修を行っていない為、今後は機会を設けていきたい。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある	100%			隣のアウトキッズとの交流を設けている。	
	27	(地域自立支援) 協議会等へ積極的に参加している			100%		現在、参加が出来ていないので今後は参加出来るよう努めていく。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	100%				
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている		66%	33%		アドバイス等は行っているが、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援をするために研修などを設けていく
保 護 者 へ の 説 明 責 任 等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	66%	33%			保護者に説明をし、都度分からない点等は改めて説明をしている。 それと同時に、スタッフにも周知していく。
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	33%	66%			適切であるかは分からないが、相談にのり、支援方法の見直しやお家での過ごし方を聞いている。
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している			100%		保護者会等は現在行っていない為、今後機会があれば設けていきたい。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	100%				
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	100%				
	35	個人情報に十分注意している	66%	33%			注意はしているが、ご利用者同士で情報が流れてしまった事があった為、今後は十分注意していくと同時に対策を行っている。
	36	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	100%				
37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている			100%			
非 常 時 等 の 対 応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	66%	33%			職員には周知しているが、保護者には行っていない。 ただし、訓練を実施する際にお声がけはしている。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	100%				
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	100%				
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	66%	33%			身体拘束に関しては、計画書に記載ではなく、別紙で保護者の方に説明の上、同意書を頂いている。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	100%				
43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	100%					

この「事業所における自己評価結果(公表)」は、事業所全体で行った自己評価です。